

糖尿病治療用注射製剤の自己注射や血糖自己測定用

アルコール消毒綿不足時の対処について（例示）

一般社団法人 日本くすりと糖尿病学会

1. はじめに

糖尿病治療用注射製剤の自己注射や血糖自己測定（以下、SMBG）を行なう際、原則として注射針や採血用針を穿刺する部位は事前に消毒することになっている。そのため、患者の中には“アルコール消毒綿を持参するのを忘れた”“不足して手元になかった”として、自己注射や血糖値のモニタリングを行わないという事例がある。適正使用の観点からはきちんと消毒を行うことが推奨されているが、それ以上に治療上必要な医薬品の投与や低血糖防止のために血糖値をモニタリングすることは非常に重要である。

糖尿病療養指導に関するマニュアルやガイドブックには、このようなやむを得ないケースの代表的なものとして災害時の対処法がまとめられており、「災害時は避難や復旧作業などで身体が汚れている可能性もあり、血糖自己測定時の採血部位や自己注射の穿刺部位が汚れている場合は水洗いなどで清潔にするよう説明する」¹⁾、「アルコール綿などの備品が不足した状況では穿刺部位の消毒を省略するのもやむを得ない」²⁾、「消毒綿や予備の針がないなどの理由で注射を中止しないようにする」³⁾などと明記されている。すなわち、「原則として注射針や採血用針を穿刺する部位を事前に消毒することになっているものの、万一、消毒綿が不足した場合でも清潔面に配慮した上で自己注射や血糖自己測定を実施する」ということが推奨されている。そこで、薬局等でアルコール消毒綿不足時の対処に関する相談の際、より具体的に対応する上で留意しておくべき点をまとめた。なお、この例示が全ての患者に当てはまるものではなく、強制されるものではない。患者にとって適切な行動がすべて網羅されている、また記載されていないことは排除したというものでもない。

2. 皮膚消毒の必要性に関する背景

糖尿病治療用注射製剤の自己注射や SMBG 時の皮膚消毒の必要性についてはさまざまな意見がある。海外では、皮膚消毒と感染には関連がなく、日常生活的に清潔でないときや病院などの感染が広がりやすい場所にいるとき、また易感染状態の患者を除けば皮下注射前の皮膚消毒は必要ないとする報告がある^{4, 5)}。日本においては、大規模な実態調査がないために皮下注射前の皮膚消毒の省略について対象者の特性や条件などが明確とされておらず⁶⁾、そのため皮下注射前の皮膚消毒の必要性については十分な結論に至っていない。しかしながら、これまで適正使用に関わる手技説明では、原則として皮下注射前に皮膚消毒を行うことが推奨されていることから、本例示ではこれを前提に作成した。

3. アルコール消毒綿不足時の対処に必要な留意点

患者は糖尿病治療用注射製剤の自己注射や SMBG を行う際、原則として事前に「(流水による) 手洗い」ののち、穿刺箇所の「洗浄・清拭」、「消毒」、「乾燥」の手順を遵守することが推奨されている。これらが必要な理由は、特に高血糖状態では感染しやすいことから衛生面に配慮した手技が基本とな